

皇學館大学情報処理センター小史

深 津 睦 夫

平成9年4月1日、情報処理センターが設置された。これは、本学の教育研究に係る情報処理をおこない、並びに本学職員及び学生が行う情報処理を支援することを目的として設置されたものである。

平成に入った頃から世界的にパーソナルコンピュータ（パソコン）が普及して、教育・研究・事務処理に利用されることが一般化してきた。同時に、それらのパソコンをつないでネットワーク化し（ローカルエリアネットワーク＝Lan）、情報を共有することも盛んになってきた。さらに平成7年頃からは、Lan同士を接続する世界的なネットワーク、すなわち「インターネット」が普及し出した。インターネットの普及は大学を中心とする教育研究機関が先導的な役割を果たし、学術研究に関するさまざまなサービス（電子メール・データベースの共有等）が提供され始めた。当時、インターネットは、学術研究のインフラ（基盤）とも言うべき存在となりつつあった。

こうした学術研究の環境の変化に対応すべく、本学においても情報ネットワークの整備をおこなうこととなった。

平成7年6月1日、学内に「情報ネットワーク準備委員会」が設置され、その整備について検討が重ねられ、同年12月に次のような答申が学長に提出された。（1）情報ネットワークの運営全般について審議する「情報ネットワーク運営委員会」と、実際にネットワークを管理運営するための「学術情報室」（仮称）を設置する。（2）平成8年度内にLanの機器を設備するとともに、それに対する助成を文部省（当時）に申請する。

これを承けて、平成8年度に、情報ネットワーク委員会と学術情報室が設置された。学術情報室は付属図書館内に設置され、長谷川明紀付属図書館長が情報室長を兼ねた。5月にはLan機器納入業者が選定され、夏期休暇中（7月15日～8月9日）に整備工事が行われた。ネットワークの端末パソコン（クライアント）は、Windowsマシン30台、Macマシン10台が情報処理教室（1号館122教室）に配置された。これらの購入については、「私立大学設備整備等補助金」等の補助（1871万円）を受けた。なお、この段階でネットワークを利用できるクライアントとして学内に設置されていたパソコンは、情報処理教室の40台と、学科研究室の各1台、図書館1階ロビーの数台に過ぎなかった。同年10月1日に学内の学術情報ネットワーク「KOGAKKN-WEB」（略称K-WEB）が開通した。このネットワークは、文部省管轄の学術情報センター（NACSIS）のSINETという学術情報ネットワーク（三重大経由128kbps）に接続され、これによりインターネットの利用が可能になった。11月からは、学術情報ネットワーク利用の講習会が随時開講され、学内における利用促進が図られた。

平成9年度には学術情報室が改組されて、情報処理センターが発足した。初代センター長には林武美教授が就任した。その主な業務は、学内の情報処理機器の整備と管理、情報ネットワークの管理と運営であり、以後それは継続している。学内の情報を共有することを目的として最初に導入されたのは、グループウェア「JOSS」である。これによって、学内の教職員は、電子メール・電子掲示板・スケジュール管理・施設予約と参照がK-WEB上で利用可能となった。グループウェアは、この後、

平成12年度には「Cobalt RaQ3J」というソフトに、さらに平成15年度には「サイボウズ」というソフトに変更された。

平成10年4月、「情報ネットワーク委員会」が「情報処理センター運営委員会」に改組された。この年は、名張に社会福祉学部を開学した。それに伴い、伊勢学舎と名張学舎を結ぶWAN（広域情報ネットワーク）を開設し、運用を開始した。また、学舎ごとに情報処理委員会を設置した。年度末（平成11年3月6日）には、伊勢学舎4号館にマルチメディア教室（421教室）が整備された。

平成12年10月には伊勢学舎に無線Lanが導入された。ただし、これについては、セキュリティ上の問題が生じたため、その後、程なく廃止された。同じく10月には伊勢学舎と名張学舎を結ぶテレビ会議システムが導入された。これは、全学部が伊勢学舎へ統合された平成22年度末まで、さまざまな会議に利用され、稼働率は高かった。

平成13年度末（平成14年3月）には伊勢学舎に5号館が増築され、その二階に情報処理室2室（522・523教室）が整備された。なお、この2室の教室のうち523教室は、平成16年9月から原則的に学生が自由に利用できる開放教室となった。

平成14年度には、本学の情報基盤の全面的見直しがなされた。「情報化ワーキンググループ」が結成され、情報化コンサルタントのアドバイスを受けつつ検討がなされ、新たな整備計画が答申された。以後、これに従って、全学的に以下のような情報基盤の整備がおこなわれた。（1）4号館視聴覚教室（431）など一般教室におけるマルチメディア機器の整備、（2）統合データベースの新事務システム（皇學館システム）の整備、（3）マルチメディア教室・情報処理教室の機器更改を中心とする再整備、（4）事務用パソコンの全職員配備、（5）全教員の個人研究室へのパソコン配備、（6）各学部学科研究室へのパソコン・プリンタの配備。なお、これら各部署に配備されたパソコンは、その後、5～6年ごとに更改がなされている。

平成16年11月には、学生向けの証明書発行機システムが更改され、「パピルスメイト」が導入された。

平成19年度には学内各部署の情報機器の整備・更改がおこなわれた。まず伊勢学舎図書館の情報機器が更改された。神道博物館の情報機器も、調査・展示物説明資料等作成用に整備された。また、皇學館高校・中学校の情報機器の整備・管理も情報処理センターが担当し、業務用情報機器、情報処理教室、さらにはそれらの上位ネットワーク回線の整備をおこなった。これらの機器・ネットワークの増加にともない、学内Lan機器の追加整備（ネットワーク負荷分散装置の導入、ファイルサーバ更改、スパムメール対策装置等）も必要となった。

平成20年度も、前年に引き続き、学内各部署の機器整備がおこなわれ、精華寮の上位ネットワーク回線の整備がなされた。また、この年度末に、教育開発センターが主体となって導入したMoodleという授業支援システム用のサーバを整備した。このMoodleに関しては、その運営についても情報処理センターが教育開発センターに協力している。

平成21年度から、学校法人皇學館の情報セキュリティポリシーが定められ、運用が開始された。それに関連して、学園関連サイトの監視を外部に委託した（スクールガーディアン）。この年度は、平成14～15年度に整備・更改された数多くの機器の更改時期にあたり、皇學館システムサーバ、伊勢学舎ネットワーク機器、高校・中学校サーバ、大学・高校・中学教員用パソコン、図書館・就職課資料室学生検索用パソコン等多数の機器・設備の更改がおこなわれた。また、文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムに採択された「『せんばいトーク』から始まる就職満足度向上プログラム」の事業である「SNSキャリアコミュニティ」の構築に協力した。

平成22年4月には、教育開発センターが運用する授業録画システム「Auto-Rec」の機器の整備を

おこなった。この年は、伊勢学舎に6・7・8号館が増築され、6号館に情報処理室（631教室）が設置された。

平成23年度は、名張学舎を廃し、すべての学部を伊勢学舎に統合した。それに伴い、9号館（研究棟）が増築されることとなり、教員用のパソコンの移転等の作業が行われた。各学舎情報処理委員会も統合されて、単一の情報処理委員会となった。

平成24年度には、キャリア教育の推進のために、eポートフォリオの「manaba folio」が導入されることとなり、その支援を行った。また、学生が利用するメールサービスを「Active Mail」から「Gmail」に変更した。平成12年度にいったん導入されたが、セキュリティ上の問題があって廃されていた無線Lanについて、その運用環境を6号館1階に試験的に整備した。以後の本格導入については、この利用状況を見て判断する予定である。

（平成24年11月26日提出）

【追記】

学内の情報処理業務が安定的に遂行される体制が一応確立されたこと、学術情報やICT教育に関してはそれに深く関わる部署において管轄する方が効果的であるとの判断により、平成27年3月を以て、情報処理センターは廃止された。以後、学術情報に関することは付属図書館が主管、ICT教育に関することは教育開発センターが主管、それ以外の教育研究に係る情報処理に関すること、情報ネットワークに関すること、教育研究用情報処理設備の運用、整備及び調整に関すること、その他情報処理に関することは、総務部情報担当が主管することとなった。

（平成27年11月27日記）

（ふかつ むつお・皇學館大学文学部教授）

【編集担当者附記】 本稿は、『皇學館大學百三十年史』各説篇に掲載のため準備された原稿であるが、同書の刊行を見送ることとなったためここに掲載させていただいた。